

## 完了報告書（平成 23 年度）

提出者 吉田 正純

提出年月日 2012 年 3 月 30 日

### 【プロジェクト名】

和文 「大学非常勤職員のワークライフバランスについての研究」

英文 Study on the work-life balance of non-regular workers in University

### 【メンバー構成】

研究代表者 吉田正純

幹事 吉田正純

メンバー 山根実紀、小林千夏、菊地夏野、村上潔

### 【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、現在大学内外で議論されている、非常勤職員の労働と生活の問題に着目し、その実態と意識を把握することを目的としている。多くの大学は、いまや大半が非常勤職員および派遣職員で支えられている現状にある。それらの労働条件については 3～5 年の雇用上限期間が適用され不安定な雇用状態は深刻な問題となっている。本プロジェクトの主要なメンバーは、こうした課題に取り組むために、すでに 2010 年度に、京都大学文学研究科グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」および京都大学女性研究者支援センターによる「京都大学における男女共同参画に資する調査研究」研究ユニットを立ちあげ、議論を重ねてきた。

2011 年度はこの質問票の内容及び配布方法を練り直し、プロジェクトメンバー内外での議論とプリテストを重ねてきた。こうしてようやく質問票を修正・完成させ、2012 年 1 月までに合計 1011 通の発送を終え、現在順次返送・集計の作業にとりかかっている。本年度は京都大学を対象を限定し、パイロット調査を実施して質問紙に修正を加えた上で、アンケートを実施した。回収率は 30% 強で、自由記述欄にも切実な声が多数書きこまれており、分析作業を進めている。これにより非常勤職員の労働条件・生活環境の双方を把握することで、労働条件が生活に与える影響や、生活環境から労働条件がどれだけ制約されているのかといった、労働条件と生活環境の相互作用や関連を明らかにすることが期待されている。

### 【活動の記録】

「京都大学非正規雇用職員の働きかた・生活に関するアンケート調査」

アンケート発送 2011 年 12 月～2012 年 1 月／回答締切 2012 年 2 月 9 日

配布対象 京都大学の職員録に記載のある非常勤職員 1011 名（有効回答数 321 名）

インタビュー調査 2012 年 2 月～ インタビュー予定者 26 名

2012 年 2 月 18 日 GCOE 成果報告会

2012 年 3 月 23 日 公開報告会

### 【成果の概要】（800字程度）

現時点ではアンケート結果の単純集計と大まかな傾向の分析、および性別・年代による数項目のクロス集計のみを実施している。アンケート結果のうち、「1. ご自分について」から、回答者は91%が女性であり、平均年齢は41.3歳、結婚されているかたは約半数で、子どもを扶養している方は12%であった。京大の非常勤職員において女性が高い割合であることは予想されたが、30代・40代が約3分の2を占める一方で、結婚・子育てをしている割合は低かった。項目30にもあるように必ずしも結婚を否定しているわけではないものの、諸調査に示されているような非正規雇用で家庭をもつ難しさがあらわれたと思われる。

「3. 仕事と職場環境」「4. 有期雇用について」では、回答者の79%が「1年雇用」（項目15）で、59%が「5年条項」に該当（項目16）していた。勤務内容の自己評価については、大半が事務補佐・教務補佐など「補佐」の職名であるにも関わらず（項目13）、「補助的—基幹的」の項目では補助的から基幹的までほぼ均等に分散しており、「臨時的—恒常的」では「恒常的・やや恒常的」が3分の2を占めていた（項目24）。また業務についても「熟練」「知識や技能」「責任」などいずれの項目でも必要と感じており、場合によっては正規職員以上に高いものを求められると考えていることが示された。5年での雇い止めについては、反対が6割に上り（賛成は3%）、自由記述欄でも自らの待遇だけではなく、業務の継続性のうえでも問題を指摘する回答が多数あった。また給与面でも43%が「もっと評価されてもいい」と回答したほか（項目26）、14%が何らかのハラスメントを経験したことがあるという結果であった。

「5. 家庭や生活について」では、年代・家族構成から育児休暇・介護休暇等を利用している割合は少なかったが、非常勤職員でも制度を利用できること自体を知らないと答えた割合も高かった（項目38、40）。また「6. これからの仕事や生活について」では、半数以上が正規職員となることを希望する一方で、「こだわりはない」とした方のなかにも希望はするが現実的に厳しいと感じている記述もあった。また「7. その他」の「京大で働くことについて」（自由記述）では、職場の環境については正職員も含めた人間関係によって、働きやすさには大きな差がみられた。雇用条件や待遇については否定的な意見が極めて多く、先行きが見えないことへの不安を指摘する声も数多く示された。また大学の職場で働くことへの誇りや成長への期待を寄せる声も多い一方で（それゆえに）、正職員の待遇や働き方への不満も多いことが分かった（項目44）。これらの項目では性別・年代による差も見られたため、今後もより詳細な分析を進めたい。

### 【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	574.5（千円）	実績額 749（千円）

## 京都大学非正規雇用職員の働きかた・生活に関するアンケート調査

アンケートにご協力をお願いします。

このアンケートは、京都大学で、時間雇用職員などの非正規の雇用形態で働いている職員のかたを対象にしています。いまみなさんが、どのような暮らしをされているのか、どんなふうに関わりたいと考えられているのかを中心にお尋ねします。

京都大学にはおおくの非正規雇用職員が働いています。そうしたみなさんの職場環境や、働きかたに関する意識を明らかにすることは、今後の京都大学をより働きやすい職場にしていけるだけでなく、全国の大学にいる非正規雇用職員の方々の働きかたや生活について考えるうえでも、非常に大切なことです。ぜひ、調査にご協力ください。なお、アンケート集計の都合上、今回の調査では業務職員の方を対象にしておりません。

このアンケートでお答えいただいたデータについては、厳重に管理します。また、報告書による成果の公表の際には、個人が特定されることのないような記述方法をとります。

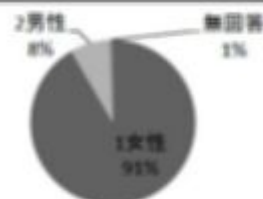
質問が多岐にわたり、お忙しいところまことに恐縮ですが、できるだけすべての質問にご回答いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

この調査に関して、ご不明な点やご意見などございましたら、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

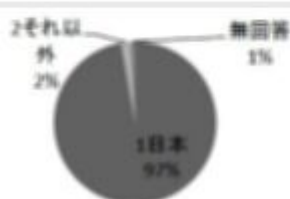
また、この調査は、京都大学文学研究科グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」次世代研究ユニット（研究課題名「大学非常勤職員のワークライフバランスについての研究」）の一環として実施しております。

### 1.ご自身のことについて

1.現在の性別にごまつけてください。	
1女性	204
2男性	25
無回答	12

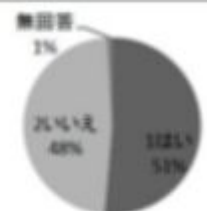


2.国籍はどこですか。	
1日本	215
2それ以外	6
無回答	3



### 3.法的に結婚はされていますか。

1はい	165
2 いいえ	153
無回答	3



### 4.経済的な援助をしている(扶養している)相手は何人いますか。

0人	275
1人	27
2人	13
3人	6
5人	1

